

鎌ヶ谷市地域福祉計画策定・推進委員会第2回会議 会議録

日 時 令和2年11月2日（月）14時～
場 所 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階会議室
出席委員 徳田訓康委員長、田中幹雄副委員長、石川宏貴委員、大城翔平委員、
三浦弘委員、山本幸子委員、福澤明二委員、近松光夫委員、中野洪委員、
中込賢次委員、関本憲吾委員
欠席委員 川村浩幸委員、馬場一郎委員、田邊光子委員、山根亜紀委員
事務局 菅井健康福祉部部長、林健康福祉部副参事（事）社会福祉課長、三橋係長、
井上主事、鈴木主事
関係者 鈴木鎌ヶ谷市社会福祉協議会次長
株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 池主任研究員、中澤研究員
傍聴者 なし

<次第>

- 1 開会
- 2 健康福祉部部長挨拶
- 3 議 題
 - (1) 会議録署名人の選出について
 - (2) 第4期鎌ヶ谷市地域福祉計画（素案）について
 - (3) その他
- 4 閉会

<会議録要旨>

1 開会

2 健康福祉部部長挨拶

こんにちは。お忙しい中、地域福祉計画策定・推進委員会をお引き受けいただくと共に、会議にご出席いただきありがとうございます。日頃より健康福祉行政はもとより市政全般にわたり各専門のお立場から貴重なご意見、ご指導を賜り心より厚く御礼申し上げます。現在、平成28年6月に策定しました「第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画」に基づき、地域福祉の担い手の育成や支援を必要とする方への相談体制の充実など様々な生活課題に地域全体で取り組み、これまで以上に誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことを目指して計画を進めて参りました。第1回会議では新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面会議とさせていただきましたが、本計画の進捗管理として委員の皆様方に点検・評価をお願いいたしました。現行の第3期地域福祉計画が本年度をもって終了となり、新たに令和3年度から8年度までの6年間を計画期間とする第4期地域福祉計画を、現在の社会情勢の変化やこれまでの計画の進捗状況等を踏まえた上で策定していくことから各分野の有識者である皆様からご意

見を頂戴したいと思います。昨今、経済的困窮等による社会的孤立や一人暮らし高齢者の孤独死・育児と介護に同時に直面するダブルケア問題・高齢者の親と無職の子どもの世帯におこる8050問題など、本市における市民の皆様の生活のしづらさやリスクは多様化・複雑化してきています。これらの様々な課題を解決し、高齢者や障がいを持つ方はもとより、誰もが安心安全に暮らすためには、みんなで支え合える環境を整えていくことが重要な街づくりの一つであると考えております。よりよい街づくりを進めていくための計画となりますので、皆様には様々なご意見を頂戴しご審議いただきますよう宜しくお願いいたします。

※委員紹介・事務局及び関係者紹介

3 議題

(1) 会議録署名人の選出について

審議会委員名簿の中から、名簿の順に沿って、福澤委員及び近松委員に決定した。

(2) 第4期鎌ヶ谷市地域福祉計画（素案）について

徳田委員長

第4期鎌ヶ谷市地域福祉計画（素案）について、事務局よりご説明をお願いします。

事務局

資料に基づき、第4期鎌ヶ谷市地域福祉計画（素案）の説明を行った。

徳田委員長

ただいまの説明に対しご質問ご意見のある方はいらっしゃいますか。

中野委員

第3期の反省を基に第4期が出来たと思うのですが、第3期は資料を見る限りうまくいっていると感じました。ただ、実際には第3期の施策10「地域包括ケアシステムを推進します」というところが進んでいないと感じています。またボランティアの件ですが、ボランティアというのは大きな災害があった時に通常のボランティアではなく自分から助けに行く意思のある方が中心になると思うので、こちらはそこまで進まなくてもいいと思います。基本目標4施策10「地域包括ケアシステムを推進します」の進捗が進んでいないにも関わらず、第4期には抜け落ちている。よくよく見てみると施策3「地域における包括的支援ネットワーク作りを進める」と謳っており、広い解釈だとここに含められたのかと思いました。もう一つは、市民アンケート46ページの間39に「あなたは、地域の福祉を充実するために、鎌ヶ谷市はどのようなことに特に優先的に取り組むべきだと思いますか。」と記しています。地域包括ケアシステムは、福祉に関する情報の提供と医療の充実という部分を具体的に連携して進めなければうまくいかないのではないのでしょうか。連携して進めるということに関してこのアンケートの質問書には何の補足も書いてありません。一般の方は地域包括ケアシス

テムが何かわかっていないにも関わらず、理解していただくための工夫が出来ていないと思います。地域福祉情報提供と医療の充実がうまく連携してネットワーク作りを進めていけるような体制が出来れば良いと考えていますがいかがでしょうか。

徳田委員長

何かご意見いかがでしょうか。

中込委員

今のご意見には全く同感です。地域包括ケアシステムの進捗状況はわかりませんが、基本目標の一つに掲げられていた事が今回は抜けていると感じました。もし抜け落ちてほかの基本目標に含めるのであれば、何がどこまでできているのか、どういった課題があるのか等を詳細に報告して、この基本目標に至った理由を明確にした方がよいと思います。

山本委員

地域包括ケアシステムは実際に活動し始めてからまだ時間が経っていないと思いますが、進捗状況について知りたいと常々思っていました。そちらをお伺いしてから中野委員、中込委員の質問に対する説明でもいいのではないのでしょうか。

中野委員

なぜ第4期から落としたのでしょうか。

山本委員

落とした理由と進捗状況を知りたいです。まだ全域で手付かずになっている状況ですので早く何とかしてもらいたいです。

事務局

まず中野委員と中込委員から、第3期計画の施策10について抜け落ちているというご意見を頂戴しましたが、第4期計画施策3で「地域における包括的な支援ネットワークづくりを進めます」と言い換えており、地域包括ケアシステムの趣旨はこちらに引き継いで進めたいと考えています。ご指摘の通り、地域包括ケアシステムについて現在の状況について言及がなされていないので、第3期計画から第4期計画になる中でどのように整理し直したかが分かるように検討していきたいと思えます。

中野委員

結構です。この件については、26日に提言・質問提出用紙をお送りしておりますので、ご覧いただいたうえご検討ください。

山本委員

地域包括ケアシステムは鎌ケ谷市でどのような状況で進行しているか伺いたいです。

事務局

鎌ケ谷市の地域包括ケアシステムについては、まず医療と介護の連携というものがあります。また、市民の皆様と一緒にどのような地域課題があるか、それに対して地域の中でどのような社会資源があればよいのか、どのような支えがあればいいか、そのためには自分たちで何が出来るのか、という事を話し合いの場を持ちながら自分たちで解決していくという二つの視点があります。医療と介護の連携という福祉の部分については高齢者支援課が中心になり、医師会や介護施設で働く方達とどのように介護と医療を連携し展開していくかという話し合いが持たれています。また市民の皆様への福祉情報の発信方法については、冊子の作成や情報の入手方法などを検討しながら進めているところです。更に、市民の皆様が住んでいる街の課題やそれに対する取り組みについては、社会福祉協議会に市から委託事業というかたちでお願いしています。6エリアで一つずつ協議体を作り、各地区社協と生活支援コーディネーターの方々を中心に市民の皆様が集まっていたいただき、地域の課題を抽出しています。そして、それらの支援についても話し合いがもたれています。これから地区社協にお願いしている協議体が進んでいくと、各地域の課題の解決ができていくと思われれます。医療と介護の部分については専門の方からシステムを作り上げ、それらが一つになって鎌ケ谷市地域包括ケアシステムにつながると考えています。现阶段では高齢者を中心に動いていますが、今後は障がいをお持ちの方やお子さんをお持ちの方など、様々な方を支えられるようなシステム作りをしていきたいということで進んでいます。

徳田委員長

ありがとうございました。社協の鈴木さん、いかがでしょうか。北部地区の課題抽出ができていていると思いますが、わかる範囲でお願いします。

鈴木次長

社会福祉協議会で最初に協議体を作った地域が北部地区です。エリア的には軽井沢・栗野・佐津間の方で地域課題を抽出してきたところです。当初は、買い物支援が必要なエリアであることから、宅配というかたちで業者が車を出し地域に集まってきた方に買い物をしてもらおうというシステムを作り1年やってきました。しかし需要と供給の折り合いがつかない状況であることや、今年はコロナ禍で開催が難しく、協議体として会議は進めていますが、現在のところ模索中です。実際に協議体は6地区中4地区が出来上がっています。中央地区・中央東地区がこれから協議体を設置していくところです。コロナ禍で会議が開催できない中、どのように課題解決していくべきか運営委員で相談しながら進めている状況です。

徳田委員長

このような状況ですが、これから課題が出てきた時に医療関係などのネットワークが広が

っていくのかと思います。

中野委員

私は中央東地区でほとんど進んでいない地区の一つで、なぜ進まないのか考えています。いわゆる地域包括ケア会議は医者・介護・ケアマネージャー・色々な人達が集まり問題を出し合うための会議だと思うのですが、それが出来ていません。そもそも地区社協の成り立ちをみると、自治会が中心になって地域のボランティアを集めて会議を開いています。地域の問題点を抽出しようとしているようですが、それが一方的な意見ばかりで議論がされていません。メンバーが偏っていて、地域の大多数の人が考えている問題点を引き出す会議にはなっていないのではないのでしょうか。地域全体がどういう事を考え、どのように進んでいきたいか、何を希望しているのかを早急に知りたいのですが、それが分かるような会議体が出来ていません。まずは、あらゆる方が集まる会議体を市が中心になって作り上げていかないと厳しいのではないのでしょうか。

徳田委員長

先ほどの説明で素案の施策3番に包括的な支援ネットワークづくりとあり、その中に今の問題が含まれていると思いますが、いかがでしょう。

中野委員

それだけでは弱いです。国が中心になって2025年に向けて作り上げようとしているシステムです。何とかしないといけない時期に来ています。それを強く打ち出すためには施策3に潜り込ませているだけでは弱すぎると思います。

事務局

今皆様からいただいたご意見については事務局に持ち帰って検討させていただきたいと思っています。こちらは上位計画になりますので詳しい部分については、素案2ページ「高齢者保健都市計画・介護保険事業計画」にも高齢者の視点で地域包括ケアシステムの深化というかたちで計画を立てております。こちらとの整合性をとった上で、基本目標2施策3にどのように記載していくかを検討していこうと思います。

徳田委員長

いかがでしょうか。

中野委員

結構です。

徳田委員長

その他に質問等いかがでしょうか。

福澤委員

第3期計画の施策3「ボランティアなどの多様な担い手を増やします」となっていますが、進んでいたのでしょうか。先ほども出ていましたが、基本的に災害ボランティアと日常我々が行っているボランティアは全く別のもので、はっきり分けなければいけません。災害ボランティアは社会福祉協議会で毎年、ボランティアセンター立ち上げ訓練等で行っているのですが、通常のボランティア活動は担い手が大変少ないのが現状です。新たなボランティア団体も少なく人材がない、また高齢化が進みしぼんでいく一方です。もっと人材を増やすための対策を進めてほしいと思います。市の広報で施策・政策を伝えることも大切ですが、どんな活動をしているのかなど、活動内容などを市民に広く知らせる事が大切だと考えています。民生委員や自治会の取り組みなどの活動内容が市民の皆様に伝わればそれが広がるのではないかと思います。現状そのような広報ができていません。積極的な推進をお願いしたいと思います。

徳田委員長

いかがでしょうか。ボランティアの担い手のために広報の有効的な活用をご提案いただきましたが、具体的に何かありますか。

事務局

昨年の夏頃に一度ご提案があり、年度末にボランティアの記事を掲載したことがありましたが定期的には載せてはいませんでした。紙面の枠もありますのでお約束はできませんが、広報担当と検討させていただきます。

福澤委員

市民の方にどのような活動を行っているか伝えれば、各々何が出来るかわかるので大事なことだと思います。1年に1～2回でも、そのような記事を載せてもらえればと思っています。

徳田委員長

それでは広報の中に取り入れるということをご検討いただけますか。

事務局

計画の中でもこれからのボランティアの人材、担い手を育成していくことは大きな課題としています。また、施策6の「地域福祉に関する広範な情報提供を進めます」ということで、市民の皆様への情報発信の在り方を今一度、検討させていただきたいと思います。

徳田委員長

今の回答でいかがでしょうか。

福澤委員

検討していただけるだけでも価値があります。宜しくお願いいたします。

徳田委員長

ほかに何かございますか。

関本委員

何歳くらいの方をボランティアの担い手として求めているのでしょうか。

徳田委員長

基準はないと思います。

関本委員

しかし基準次第では発信の仕方が変わってくると思います。

徳田委員長

今までは自発的に参加してくださる方が中心でした。

関本委員

働き盛りの30代～50代の方でボランティア希望の方はあまりいないのではないのでしょうか。では、どのように希望者を増やせるような発信をしていくのでしょうか。

徳田委員長

新聞の統計などを見ていると、会社勤めの方もボランティアをやりたいという方は大勢いるようですが、実際には会社があるためできないようです。今はボランティアが理由で会社を休むことは難しいですが、総合基本計画の中にもあるようにボランティア休暇を認める企業が増えると若い方のボランティア参加が増えると思います。

福澤委員

今のご質問ですが、現在ボランティア活動している方は70歳前後の方が多いです。30～40年前までは子どもの手が離れた母親が主にボランティア活動を始めました。その年代の方が今70代になったということです。その後、定年を迎えた方がボランティアを始めていましたが、今は定年が65歳、今後は70歳になることも想定され、そこから始めるのは厳しい状況です。現在数パーセントの方しかボランティアをやっていない状況です。先ほど話したのは、そのような中で時間がある方がいるようでしたら、という意味合いです。昔、社会福祉協議会で小学5年生から大学生が参加する学生ボランティアという組織がありましたが、事情があり今はやっていません。社会人・学生問わず年齢はいくつでも構わないので

時間がある時に少しお手伝いをしてくれるので十分です。したがって年齢のことは考えなくてもよいかと思えます。発信も何かの体制を作ってやるという事ではないと思えます。

関本委員

若い方でも構わないということですが、若い方は広報を見ないと思えます。見ないのに若い方でも構わないというのは変な感じがします。

福澤委員

それに関しては定年を迎えたお元気な方に。

関本委員

それはわかります。しかし多くの方に担い手になってほしいというのであれば、学生がいる学校等にも周知して広報してもらえばいいのではないのでしょうか。

福澤委員

それもやっています。我々ボランティアが学校に行って広報活動しています。学校関係はボランティアの広報については進んでいると思えます。

徳田委員長

担い手に関して具体的に事務局として何かありますか。

事務局

若い方が市の広報をご覧にならないという事はあるかと思えます。市ではツイッター等もやっており、そちらの方が広報より見ていただけるのであれば併せて同時期に発信していきたいと思えます。

徳田委員長

ITの活用ということですね。

事務局

ツイッターで十分とは考えておりませんが、場合によっては市のホームページなどを活用していきたいと思っています。

徳田委員長

そのようなかたちでいかがでしょうか。

関本委員

ありがとうございます。

徳田委員長

ほかに何かございますか。

近松委員

老人クラブは本来61歳以上の方に入っていただきたいのですが、福祉活動に協力したいという方をどのように探すかが課題です。組織の中に入れてもらえるチャンスがありません。

徳田委員長

担い手がないという事で、先ほどのボランティアと同じですね。

近松委員

そうです。老人クラブは公的な助成金も受けながら活動しているので、何とか減少を食い止めたいと思っています。自治会にご協力いただき助けていただきながらでないと、老人会というクラブそのものが弱体化し、なくなっていく状況です。このような機会を通じてそのことを知っていただきたい。

徳田委員長

先ほど林課長も回答されていましたが、ツイッター等の活用というかたちでよろしいでしょうか。

福澤委員

今の話に関連して、昨年から市の高齢者支援課で老人会の参加・不参加を集計されていると思いますがどのような結果が出てきているのでしょうか。

徳田委員長

集計はこれからですよ。

福澤委員

これからですか。高齢者支援課が集計して、把握するのはいい事だと思います。

徳田委員長

あらゆる手法で周知活動を行うということでどうでしょうか。

中込委員

現状では61歳以上の方に老人会から案内等に行くのでしょうか。

近松委員

個別に案内するようになっています。ただ、10年程努力して続けていますがビラを配る程度では全く参加がありません。

徳田委員長

ほかにはございますか。

三浦委員

子どもへのボランティアという話になりますが、5年前に共働き家庭で子供会役員を受けたくないという流れから子供会解散となりました。子どもの面倒を見るのは学校か自治会しかない状況です。以前、自治会で盆踊りを開催しており、自治会役員がやぐらを組んで段取りをして準備していました。しかし、役員より踊ってくれる子どもの方が少ないという状況でしたので、6年前に終了しました。色々な催しは自治会のボランティアが年間15万程度の予算の中でやっています。子供会が解散したタイミングで、コミュニティセンターで夏祭り「あさかっ子ども祭り」を行いました。1回目は夏に開催しましたが、夏休み中という事で参加者が少なく失敗に終わりました。2回目からは学校長にも相談しビラを貼ってもらうなどして6月の第1土曜日に開催したところ、150人程参加してくれました。去年は300人と盛況でしたが、今年はコロナの影響で中止になってしまいました。このように親が役員を拒み面倒は自治会が負うということで役員候補選びに苦労しています。

徳田委員長

基本目標施策1・2・3の中に今出ている全ての話が含まれているような気がします。こちらを推進していただけたらよいのかと思います。広報活動で取り入れられるところは取り入れていただき、市民の皆様にも周知していただきたいと思います。ボランティアの件や地域の支え合いなど個別のものは施策1・2・3に載っています。

福澤委員

こちらに載せてもらっているので本気度が伝わってきました。

徳田委員長

このあたりまでをまとめていただいて、次回の会議でご報告いただきたいと思います。その他に何かございますか。今までの中には出てきませんでしたが、2025年問題ということで、団塊の世代が後期高齢者になり財政・財源が逼迫するのではないかとという問題もあります。そのために地域包括ケアシステムが必要という説明が最初にありました。ほかにかがですか。

山本委員

南部地域の地区社協に所属しています。地域包括ケアシステムについて、ケアシステムの

委員さんは10人前後いますが社会福祉協議会の出先機関ということで協力体制を取っているのですが、理解できないところがあります。頻繁に会議が開かれているわけでもない現状で、これを軌道に乗せて推進するにはどのようにすべきか考えたほうがいいのではないのでしょうか。市の社会福祉課や高齢者支援課から援護射撃をしていただき、地区社協が本腰を入れあたたかいケアをやっていただきたいです。実際、社協の担当の方は自分の仕事に専念出来ているわけではなく、本業がある上で各地区に行き回って推進しています。市の事業としてやるなら、方向性を明確に打ち出し協力体制を取ってもらわないと進行しないのではないかと思います。報告を聞く限りでは、南部地区に限ってはそう思います。やっている委員さんも理解しているのか疑問に感じます。

事務局

決して市の方も何もしていないわけではありません。地域包括ケアシステムを作っていくために地区によって課題が違いますので、実際住んでいる方の生の声を大事にして検討していくべきという事から、地区社協・社協にお願いしたという流れになっています。その中で高齢者支援課と一緒に会議や運営の仕方を検討させていただいておりますが、もう少し整理をして、地域にお住まいの方にも明確に伝わるようなかたちで報告をあげて進めていきたいと考えています。

徳田委員長

地域包括ケアシステムに関しては、今の様々な意見を参考にさせていただけたらと思います。ほかには何かございますか。

中野委員

山本委員のご意見はよくわかります。市社協に丸投げされていると感じます。市も積極的に頑張っているところを見せてくれないと、地区社協は一生懸命動けません。動いたとしても地区社協の勢力範囲というのは小さいもので全てをカバーできません。我々としては丸投げという意識がありますので、それを打破するためにも一生懸命やっていただきたい。

田中副委員長

自治会長の立場からしますと、報告がないためどのような状況か全く見えてきません。自治会の役割や関わり方・現在の進捗状況を明確にしてもらわないと進んでいけないのではないのでしょうか。地域の声を拾い上げるには大勢が参加している自治会が一番早いと思います。ボランティアの問題もそうですが、自治会とうまく連携を取っていただきたいと思います。例えば、東部地区のボランティアの問題ですが、目的を絞って募集すると若い方が来てくださいます。以前、全戸配布でゴミ出しボランティア募集を行いました。同時にボランティア登録も募集したところ、若い方も応募してくださいました。やり方を工夫していくことが大切だと思いました。東部地区については事務局に聞いていただくとわかると思います。いずれにしても地域包括ケアシステムの第2層協議会は全く報告がありませんでしたが、自

治会としては一緒にやっていくしかないと思いますのでご検討いただきたいと思います。

事務局

ありがとうございます。地域の中の皆で考えていかなければいけない事だと思います。情報を浸透させる方法については検討させていただきます。東部地区では協議体メンバーから、市民の方がどこに相談していいかわからなければ相談につながらないという意見が出ています。そういったことから相談窓口の一覧表を作って自治会で配布していただく活動をしているという報告もあります。そのように皆様のご理解につながるきっかけを作っていきたいと思っていますのでご協力お願いいたします。

徳田委員長

その他に何かございませんか。様々なご意見が出ましたので、取り入れられるものは取り入れていただきたいと思います。ご意見がなければ次の議題「その他」に移ります。事務局からご説明願います。

(3) その他

事務局

次回会議の日にちを伝え、開始時間等の詳細は、改めて開催通知を送付する旨説明した。

また、今回の素案に対する意見があれば、11月13日（金）までに事務局へ提出するよう依頼した。

徳田委員長

それでは円滑な運営にご協力いただきありがとうございました。また、事務局の方は今日の貴重なご意見を参考にして計画を進めていただきたいと思います。それではこれで議長の役目を終了させていただきます。

事務局

以上をもちまして終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。

以上で会議は終了した。

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため、次に署名する。

令和2年12月2日

氏 名 福澤 明二 _____

氏 名 近松 光夫 _____